

婦人科腫瘍科

○ 婦人科腫瘍科の概要

1. 婦人科腫瘍科の特色

埼玉医科大学国際医療センター、埼玉医科大学病院ともに、二次、三次救急施設のため、埼玉県内の広い地域から紹介される症例や搬送される症例に恵まれている。一方、近隣に産婦人科標榜施設は存在しないことから、大学病院では正常分娩やプライマリ・ケア、一次救急症例も多く、産科・婦人科臨床研修には、きわめて好適な施設である。国際医療センター婦人科腫瘍科では、包括的がんセンターの一部として癌治療に全人的取り組みを行っていることから、2 病院を使用することによって、より有機的な研修が可能となった。また、埼玉医科大学総合医療センター産婦人科、同総合周産期母子医療センターとも緊密な連携をとった研修が可能である。

2. 診療実績

埼玉医科大学国際医療センター婦人科腫瘍科では、全国屈指の症例数を有し、婦人科癌および類縁疾患の診断、手術、化学療法、放射線療法などが多数経験できる。また埼玉医科大学病院では、正常妊娠・分娩、合併症妊娠・分娩など産科領域、不妊症に対する体外受精、更年期障害に対するホルモン補充療法、内視鏡手術など生殖内分泌領域、性器脱、その他の婦人科手術、感染症などきわめて広範囲な臨床を行なっている。

以下に年間症例数（国際医療センターおよび大学病院）の概要を示す。

埼玉医科大学国際医療センター（2016 年実績）

○婦人科浸潤癌（309 例）		○重複癌（6 例）	
子宮頸癌	80	体癌＋卵巣癌	8
子宮体癌	121	腹膜癌＋盲腸癌	1
子宮癌肉腫 肉腫	11		
卵巣癌	89		
腹膜癌	9		
卵管癌	4		
外陰癌	2	○その他の癌	
絨毛がん	0	転移性卵巣癌	6
侵入奇胎	0	原発不明癌	3
○非浸潤性新生物		○良性疾患	
CIN3	95	子宮内膜症	2
AIS	4	子宮筋腫	4
AEH	7	卵巣腫瘍	24
卵巣腫瘍 LPM	20	子宮内膜ポリープ	0
		その他	0

埼玉医科大学病院（2016年実績）

産婦人科診療統計	
総分娩数	688
単胎生産	655
多胎生産	33
（早産）	（145）
産婦人科手術数	
○婦人科良性疾患に対する手術	
性器脱	122
開腹子宮手術	135
開腹卵巣手術	118
○内視鏡手術（開腹移行例と補助も含む）	
腹腔鏡手術	124
子宮鏡手術	40
○産科手術	
帝王切開術	279
不妊治療症例数	
体外受精	29
顕微授精	5
人工授精	154
凍結胚移植	9

3. 診療・教育スタッフ

国際医療センター

藤原 恵一（教授）：婦人科腫瘍学
 長谷川幸清（教授）：婦人科腫瘍学
 吉田 裕之（准教授）：婦人科腫瘍学
 長尾 昌二（客員教授）：婦人科腫瘍学

埼玉医科大学病院

石原 理（教授）：産婦人科一般、生殖内分泌、不妊症治療
 亀井 良政（教授）：産婦人科一般、周産期
 永田 一郎（客員教授）：産婦人科一般、婦人科手術、婦人科腫瘍
 岡垣 竜吾（教授）：産婦人科一般、生殖内分泌、不妊症治療
 梶原 健（教授）：産婦人科一般、生殖内分泌、不妊症治療
 難波 聡（講師）：産婦人科一般、生殖内分泌、遺伝、女性スポーツ医学
 田丸 俊輔（講師）：産婦人科一般、周産期

ほか、助教 11 名（うち日本産科婦人科学会専門医 7 名）

多彩な専門的背景を有する、いずれも経験豊富な産婦人科専門医資格を有する医師が診療スタッフを構成する。入院症例の受け持ちは研修医を含む 3 人のチームで担当する。

4. 研修責任者と臨床研修指導医

研修責任者：藤原 恵一（診療部長）

臨床研修指導医：吉田 裕之、小笠原仁子

5. 臨床研修プログラムの特色

国際医療センターで初期研修を行う研修医で婦人科腫瘍科を選択した者は最低1ヶ月間国際医療センターで研修を受け、さらに最低一ヶ月間は毛呂の大学病院で研修を受けることが望ましい。その他の期間は研修医の希望により、国際医療センター、大学病院、総合医療センターその他の連携施設での研修が可能である。

実践的な研修を重視しているの上級医の指導のもとで悪性腫瘍手術の執刀、外来診察の経験を多数積むことが可能である。

新医師臨床研修制度の研修目標に準拠し、臨床医として必要な基本的事項をさらに研修する。これに加え、産婦人科シニアレジデントに備えた必要な経験を蓄積する。

6. 経験目標・到達目標（5ヶ月間の場合を示す）

一般目標（G10）

臨床医に必要な基本的能力を身に付けるために、産婦人科領域の診断と治療の実際を学ぶ。特に知識レベル、技術レベルの向上だけでなく、女性の心理に配慮した診療の実際を身に付ける。

行動目標（SB0s）

婦人科腫瘍

- 1) 子宮頸癌・体癌・卵巣癌の組織型について理解している。
- 2) 婦人科腫瘍の staging に必要な術前検査計画が立てられる。
- 3) 指導医の指導下に良性卵巣嚢腫の手術が執刀できる。
- 4) 化学療法の用量計算ができ、指導医の指導下に実際の指示が書ける。
- 5) 化学療法の副作用（骨髄抑制等）を理解している。

産科外来

- 1) 妊婦検診のルーチン検査を行い、異常妊娠のスクリーニングができる。
- 2) 体重増加や妊娠高血圧症候群に対する指導ができる。
- 3) 子宮口の開大度、頸管長を評価できる。
- 4) 胎児計測（予定日算出、推定体重計算）ができる。AFIが算出できる。
- 5) 基本的な胎児奇形スクリーニングができる

産科

- 1) 切迫流産・切迫早産の入院管理計画が立てられる。
- 2) 陣痛発来、破水入院時の診察ができ、管理計画が立てられる。
- 3) 内診（Bishop score 判定、回旋）と破水の診断ができる。
- 4) 感染徴候の判定と治療ができる。
- 5) 胎児心拍モニターの異常を判読できる。
- 6) 陣痛促進剤の適応が判断できる。
- 7) 正常分娩の娩出時の管理ができる（10例）。
- 8) 正常新生児の診察と処置ができる。
- 9) 分娩前後の異常出血の診断と初期対応ができる（弛緩出血、頸管破傷等）。
- 10) ショック・産科DICの初期対応ができる。
- 11) 帝王切開の準備と助手ができ、手順を理解している（5例）。

生殖／不妊

- 1) 正常月経周期におけるホルモン変動について説明できる。
- 2) 月経の異常について診断できる。
- 3) 不妊スクリーニング検査が施行／判定できる。
- 4) 子宮卵管造影、精液検査、ホルモン採血検査を施行／判定できる。
- 5) 不妊検査目的の腹腔鏡手術の助手ができる（5例）。
- 6) GnRH agonist、エストロゲン剤、プロゲステロン剤の知識がある。
- 7) 経膈超音波で卵巣を描出できる。

更年期

- 1) 更年期障害の症状を理解し、ホルモン補充療法の処方および検診ができる。
- 2) 骨代謝についての知識があり、DEXAなどの結果をもとに治療計画がたてられる。

婦人科外来

- 1) 不正出血の原因診断ができる。
- 2) 下腹痛の原因診断ができる。
- 3) 子宮頸癌・体癌検診ができる。
- 4) 尿妊娠定性反応、血中hCG定量検査の結果を評価できる。
- 5) 経膈超音波による腹腔内出血・腹水貯留の診断ができる。
- 6) 正常妊娠初期の診断ができる。
- 7) 子宮外妊娠の診断と検査ができる。

- 8) 卵巣腫瘍茎捻転の診断ができる。
- 9) 骨盤腹膜炎の診断ができ、治療計画を立てられる。

7. 週間スケジュール

原則、2週間国際医療センター婦人科腫瘍科、2週間埼玉医科大学病院産婦人科の研修とするが、2ヶ月間以上の研修の場合、希望により、4週間の大学病院産婦人科研修も可能である。

○ 国際医療センター婦人科腫瘍科の週間スケジュール(例)

※毎朝 TCP を行う

曜日	午前	午後
月	手術	手術、病棟、放射線、画像、病理カンファ
火	教授セカンドオピニオン	教授外来（コルボスコープ）
水	手術(婦人科悪性手術)	手術（婦人科悪性手術）
木	手術、病棟	手術、病棟
金	手術、病棟	手術、病棟
土	病棟	

※TPC: Treatment Planning Conference 月～金 毎朝

○ 大学病院のスケジュール(例)

曜日	午前	午後
月	クリニカルカンファ 教授回診	手術、周産期カンファ
火	朝カンファ 手術	病棟、手術
水	朝カンファ 病棟処置	手術
木	朝カンファ 産科外来	特殊外来（不妊外来）
金	朝カンファ 病棟処置	手術
土	朝カンファ 病棟処置	病棟

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
 埼玉医科大学国際医療センター 包括的がんセンター
 婦人科腫瘍科 長谷川 幸清（教授）
 TEL : 042-984-4531
 FAX : 042-984-4741
 E-mail : koseih@saitama-med.ac.jp